

お薬のしおり



No.222 (2020.11)

東京医科大学病院 薬剤部

監修：東京医科大学病院 感染症科

インフルエンザワクチンについて

毎年、冬の時期に流行するインフルエンザ。日本では12月～3月にかけて流行し、2月初めごろに患者さんのピークを迎えます。

○インフルエンザワクチンについて

人間の身体には、ウイルスに感染するとそのウイルスを排除する働きをもった物質（抗体）を作り、次に同じウイルスが入ってきても感染症になりにくくする「免疫」という働きがあります。この働きを利用するのが、ワクチン接種です。現在日本国内で使われているインフルエンザワクチンは病原性をなくした「不活化ワクチン」という種類のワクチンです。ワクチンの基となるウイルス（ウイルス株）は、毎年WHO（世界保健機関）が発表する推奨株を基に、会議にてその年の流行を予測・検討し、決定されています。なお、2014年までは3価（A型2株+B型1株）であったワクチンが4価（A型2株+B型2株）となり、予防できるウイルスの数が多くなりました。

○インフルエンザワクチンの効果は？

ワクチンはインフルエンザへの感染を完全に抑える働きはありません。しかし、インフルエンザの発症を抑える効果が一定程度認められています。また、特に基礎疾患（心・腎・肝等に疾患のある方や糖尿病の方など）のある方や高齢の方では重症化する可能性が高いと考えられています。一方で、接種時の体調などによって副反応が生じる場合があります。医師と相談の上、接種し、接種後に体調に異変が生じた場合は医療機関に相談しましょう。

○接種の制度は？

インフルエンザの予防接種には、「定期接種」と「任意接種」があります。定期接種とは、予防接種法に基づいて市区町村が行う接種のことで、定期接種の対象者等については、接種費用が市町村によって公費負担されているところもあります。

定期接種対象者

(1) 65 歳以上の方

(2) 60～64 歳で、心臓、腎臓、呼吸器の機能に自己の身の辺の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する人、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する方

※地域の医療機関、かかりつけ医等でインフルエンザワクチンを受けることができますが、自治体によって実施期間や費用は異なります。

※定期接種対象者以外の方は任意接種となります。

○ワクチン接種量と接種回数？

インフルエンザワクチンの接種量及び接種回数は次の通りです。

- | | | |
|--------------------|------------|-------|
| (1) 6 カ月以上 3 歳未満の方 | 1 回 0.25mL | 2 回接種 |
| (2) 3 歳以上 13 歳未満の方 | 1 回 0.5mL | 2 回接種 |
| (3) 13 歳以上の方 | 1 回 0.5mL | 1 回接種 |

(ただし、予診で接種が不相当と診断された場合を除く)



○コロナ禍におけるインフルエンザワクチンの接種について

今年^{けねん}は新型コロナウイルス感染症の流行が懸念される中、この冬に向けてワクチンの需要^{じゅよう}が高まる可能性があることを踏まえ、厚生労働省^{こうせいろくどうしやう}では、ワクチンの優先的な接種対象者への呼びかけを行なっています。但し、これら以外の方々についても、2020 年 10 月 26 日（月）以降は接種をお待ちいただく必要はありません。なお、ワクチン接種による効果^{こうか}が出現するまでに 2 週間程度を要することから、毎年 12 月中旬までにワクチン接種を終えることが望ましいと考えられています。

あわせて厚生労働省は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために以下のことを国民や医療従事者に呼び掛けています。

- ① 3 密^{みつへい みっしゅう みっせつ}（密閉、密集、密接）の回避
- ② 手洗い、咳エチケットなどの実施
- ③ 定期的な清掃^{せいそう}や十分な換気^{かんき}などの実施
- ④ 接種に当たって、事前に医療機関に電話で予約を行う
- ⑤ 来院時・受診時のマスクの着用



～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。～